

11月29日(水)から

火災の発生・鎮圧情報のお太助フォン放送を終了します

これまで、市内で火災が発生したときは、お太助フォンで消防団出動指令などを放送していましたが、消防指令センターの更新に伴い放送設備との接続ができなくなったため、火災が発生したときの放送を11月28日(火)で終了します。併せて、毎月第1・3月曜日に実施していたテスト放送も廃止します。



Q お太助フォン放送がなくなったら、消防団はどうやって出動するのですか？



A 消防本部から火災が発生した町の消防団員へ一斉にメールを配信します。消防団幹部へは、全ての火災発生情報をメールと電話で連絡します。



Q サイレンが聞こえてきたときに、市内で何が起きたのか確認する方法はありますか？



A 災害案内☎42-4000へ電話してください。自動音声で案内します。(混み合うとつながらない場合があります)



Q 災害時の緊急情報に関する発信に変化はありますか？



A 災害発生時の避難指示など緊急放送は引き続き市から行いますので、ご安心ください。



Q 電話でしか災害情報がわからないの？



A 現在、市の公式LINEで災害情報のお知らせができるように準備を進めています。機能が追加され次第、お知らせします。

毎月一回
定期開催
普通救命
講習

開催日時 | 12月17日(日) 9:00~12:00 [申込締切 12月10日(日)]
お問い合わせ | 警防課 救急係 ☎42-3952



安芸高田市消防本部・安芸高田消防署 ☎42-0931・お太助フォン 42-3952 47-1191



博物館の元就と隆元の顔出しパネル



歴史民俗博物館 副館長 秋本 哲治

あきたがた
れきしきこう
安芸高田
歴史紀行

毛利元就入城500年記念

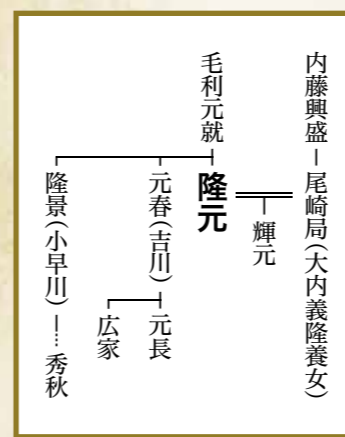
大江広元と安芸毛利氏 | その7

「不運之者」隆元の実像

歴史民俗博物館の庭には元就と隆元の顔出しパネルが並んでおり、来館者の記念撮影スポットになっています。前回に引き続き、今回は毛利氏当主として元就と並び立った隆元の後を紹介していきます。

敵島合戦と隆元

1555年、毛利元就の生涯で最も有名な敵島合戦が行われ、周防(山口県)の陶晴賢に勝利します。当初元就は大内氏を乗っ取った陶氏に協力しており、開戦には消極的でした。隆元も山口で青年期を過ごし、陶氏はもちろん、妻の実家内藤氏(大内重臣)など大内氏周辺に多くの人脉がありました。しかし、毛利氏の主権が脅かされることを危惧した隆元は、当主として陶氏との決別を主張し、元就も最終的に了承します。そうして、弟元春・隆景も含めた一族総動員体制で毛利氏は広島湾岸へ侵攻し、敵島合戦へとつながります。この勝利を機に、毛利氏は安芸の有力な領主から、戦国大名へと飛躍していきま



毛利隆元関係系図

隆元の苦悩

戦国大名の中でも、毛利氏には書状など多くの史料が残されていることが特筆されます。その中で、隆元の書状は彼の内面をうかがい知ることができるものが多く、極めて繊細な人間性が読み取れます。

例えば、「名将」である父元就に対して自己を「不運之者」とするような劣等感、また他家の当主となりながら隆元への不満などを聞かない元春・隆景に対する不満など、通常は後世に残ることのないはずのいわば「愚痴」のような記録が多数残っています。一方、自身は無器量であるが毛利家のためには命も捧げる覚悟を示し、また元就への災難は自らが身代わりになると願うなど、強い自己否定と使命感を持っていたことも知られています。

残された記録から見える、悩み苦しみながらも前に進むとした隆元の姿は、同じ人間として現代の人々にも共感されており、最近新たなファンを増やしています。

隆元の急逝

1563年、佐々部(式敷)の蓮華寺で出雲尼子氏攻めの準備をしている最中、隆元は41歳で急逝します。一説には食中毒ともいわれますが、近年では病死と考えられています。出雲の陣中で訃報を知った元就は悲嘆に暮れ、自分も一緒に死んでしまいたいとまで記しています。

隆元の死後、郡山城内に菩提寺として常栄寺(現在は山口市内)が開かれ、その脇が隆元墓所となりました。今年、生誕500年の隆元に改めて注目！



毛利隆元逝去の地(高宮町佐々部)